

活性化モデル商店街の概要

商店街名：表参道発展会、豊川商店街振興組合、豊川門前通商店街振興組合、稲美会、本町商店街振興組合、開運通商店街振興組合、豊川中央商店街振興組合、すわポン商店会、プリオテナント会、豊川市開発ビル株式会社

●キャッチフレーズ

地域資源で継続的にぎわいを創出するまち

◎商店街の将来ビジョン

【現状】

豊川稲荷などの観光資源にも恵まれ、年間の観光客数は700万人を超えているものの、商店街は、店主の高齢化、後継者不足、営業力不足等により廃業し、空き店舗・空地が増加傾向にあり、また、店舗等が住居になり経済活力が低下している。

【課題】

- ・ 中心市街地を中心拠点とし、公共施設や商業などの都市機能をさらに集約することで、まちの利便性を高め維持することが求められる。
- ・ 商店街等が実施する活性化イベント等への支援を通じて中心市街地の活性化を図ることが求められる。

【対策】

- ・ 豊川稲荷など集客力の高い観光資源を強みと捉え、平成25年に開催されたB-1グランプリで培ったおもてなしの精神を継続しつつ、店主らが主体となり地域の消費者ニーズにあった継続的な事業を推進する。
- ・ 空き店舗を活用した事業等について検討・実施を行う「リノベーション事業」や「まちなか再生検討事業」など新規事業等にも積極的に取り組むことで継続的にぎわいの創出の達成を目指す。

◎具体的に取組む事業内容

○外部人材活用促進事業

- (1) 中心市街地商店街合同地域通貨関連事業、まち歩きイベント、まちなか情報発信拠点施設運営、情報発信事業、市民参加事業（28年度～32年度） (2) まちなか再生検討事業（28年度～30年度）

○個性・魅力の創出事業

- (1) ファサード整備事業（28年度、29年度） (2) 中心市街地魅力アップPR事業（28年度） (3) リノベーション事業（29年度～32年度）

○地域経済活性化事業

- おもてなし空間整備事業等（29年度、30年度、32年度）